

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和5年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		7,248	t-CO ₂
①を除外する温室効果ガス換算排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふつ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふつ化窒素		t-CO ₂
	⑨エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑨合計）		7,248	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度 令和5年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和8年度 目標削減率	
	温室効果ガス 総排出量	7,248	t-CO ₂	6,523	t-CO ₂	10.0

項目	基準年度 令和5年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和8年度 目標削減率	
	原単位当たりの 排出量		CO ₂		CO ₂	

(2) 目標設定の考え方

初年度（令和6年度）4%の削減と翌2年間で6%を削減し令和8年度迄に10%の削減目標とする。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
 備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
空調機器の効率化	①FCU、PAC空調室内機フィン洗浄を定期的実施 ②運転時間の見直しを随時実施	洗浄・清掃を汚れ等に応じインターバル化
照明電力量の削減	①日没時間をもとに外灯点灯時間の見直しを実施 ②風除室・ESC・EVホール間接照明についても省エネ点灯を推進 ③後方の照明をこまめに消灯 ④定期的にライトダウンイベントを実施 ⑤老朽化したLED照明を交換し、電力効率を向上	目標年度の電力量を基準年度から10%削減
熱源機器消費電力削減	①省エネ空調システムBAMDS導入 ②冷水・温水設定温度の見直し	目標年度の電力量を基準年度から10%削減

指針第1号様式

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	%

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

--

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

1 中間期の外気冷房を実施 2 廃棄物の分別回収を推進し、リサイクル率の向上を図る 3 アイドリングストップの推進 (警備巡回・案内放送)

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

地球環境デーなどに館内及び外壁のライトダウンキャンペーンを実施
